

令和6年度 第3回 松江市ものづくり振興会議

【議事要旨】

1. 日時：令和7年3月18日(火)10:00~12:00
2. 会場：島根県市町村振興センター 6階 大会議室
3. 出席者
 - (1) 【出席委員】
児玉委員、金崎委員、谷口委員、松崎委員、内藤委員、高橋委員、福頼委員、柏井委員、田中委員、大屋委員、田立委員、天崎委員、小松原委員、松浦委員、田代委員、狩野様（代理出席 青砥委員）、荒田委員、竹下委員、野村委員
 - (2) 【欠席委員】
湯野川委員、金築委員、山中委員、壽山委員、北村委員
 - (3) 【事務局】
桑垣部長、大谷センター長、高田課長、飯塚係長
4. 次第
 - (1) 開会挨拶
 - (2) 【報告事項】
I 「令和6年度ものづくりアクションプラン事業進捗」について
 - (3) 【報告事項】
II 「令和6年度第2回ものづくり振興会議における意見対応」について
【協議事項】
I 「第5期ものづくりアクションプラン（案）」について
 - (4) その他
 - (5) 閉会
5. 議事
・【報告事項】 I について事務局から説明

<質疑・意見>

なし

・【報告事項】Ⅱ、【協議事項】Ⅰについて事務局から説明。

<質疑・意見>

(谷口委員)

まず伺いたいのは、省エネ補助金が来年度はあるのかという点が1つ。

2つ目は松江市の補助メニューについて。やはり一番考えていただきたいことは、国の補助金と、市の補助金、或いは県の補助金とそれぞれあるわけだが、同じことをやっても仕方がない。せっかく松江市が実施するなら、松江らしい、特色を出した補助金の内容にしていきたいということを経験的な考え方として持っていただきたいと思う。そういう意味では、今回提示していただいた支援策の中で、いくつか工夫が見られて、良いと思った。今後も、皆さんの意見を聞きながら、特色のあるものにしていただきたい。

3つ目は、前回の会議で私が発言した松江ものづくり.netの更新について。大屋委員へヒアリングしていただいた内容について共有いただいた。内容を伺って、なかなかできるのか難しそうな印象を受けたが、良いのではないかと思う。

できれば常に内容が更新されて、動きのあるサイトを目指していただきたいと思う。例えば企業情報は十何年経って、そのままの内容の企業が結構あるのではないかと思っている。企業は常に動いているので、最新の内容が掲載されるようなウェブサイトにしていただきたいと思っている。

(事務局)

1つ目の省エネ補助金について、来年度はないという状況。昨年度まで省エネに関する設備導入等の補助支援事業を国の交付金を活用して実施しており、令和4、5、6年と3ヵ年、製造業に限らず商業サービス業も含めて、島根県と一緒に支援を実施してきた。3ヵ年実施してきた補助金の効果（節電効果）が少しずつ出ているのではないかと思っている。

また、今年度の国の交付金の額は昨年度の半分程度になっている。現在、予算について議会で審議中だが、上下水道料金の減免等、市民の皆様の物価高騰、エネルギー高騰の対策に向けた支援に国の交付金を活用したいと考えている。

今のところは国の補正予算では省エネ補助金の予算をつけてないが、今後の補正予算等の可能性についても注視していく。また、新年度からの補助支援メニューの中の「環境負荷軽減活動」の補助制度において、空調の更新やLEDの更新を対象としている。こちらの補助金も活用していただきたいと思っている。

2つ目の、国や県とは異なる特色を出した支援内容にするということについては、基本的な考えとして重々承知している。島根県と協調して補助するものもあるが、松江市の補助金は痒いところに手が届くような支援内容にすることや、申請を簡素化するなどして特色を

出しているところだが、今後もその考え方を念頭に実施していく。

3つ目の松江ものづくりネットの更新に関して、企業情報は常に更新していく必要があるという点について、現在専門員が年に数回企業に出向き、松江ものづくりネットの掲載内容について更新内容等の確認を実施している。今後、企業側から更新ができるようになればもう少し利便性が上がるのではないかと考えている。

(児玉委員)

コロナ禍が明けてから、松江市のものづくり産業は出雲市や安来市に比べ、生産の面や付加価値の面で後れをとっていたわけだが、ものづくりアクションプランの冊子(案)の5ページを拜見すると付加価値額が67億円、従業者数も6,500人程度ということで、1人当たりの生産性が1千万円を超えてきているのではないかと推察している。昨年からの賃上げについての生産性向上の土壌ができつつあるのではないかとうれしく思っている。

今年の1月22日に中学生向けの職業イベントを開催した。松江市内の中学2年生約1,800人程度が来場し、午前と午後に分けて、市内の企業約60社の職業体験を実施した。校長先生からご協力をいただき、良いイベントになったのではないかとと思う。現在は昔のように大学4年生くらいから職業を決めるというモラトリアムな時代ではなくて、中学生から興味を持ってもらうことが大切だと考えている。今回のイベントは、山口市をモデルにして実施したもののだが、中学生の段階から、ものづくりの職業というものは松江市にもたくさんあるということを知ってもらえたのではないかとと思う。今後も継続してやっていく価値は非常にあったのではないかとと思う。

また、エコシステムの取り組みについて、起業された企業が8社あるということだった。これらについて、本来の自分が好きなことをやろうとか、こういうことをやりたいということがまずあってから起業されたのか、それともPBLとか社会課題についてどういうことをすべきかを把握する力、課題を把握する力を、取り組みの中で見つけてから事業化されたのかということが非常に大事。本来のアントレプレナーというのは後者の方であり、実際の社会課題とか業界に対するリスクとか、そういう課題に対して挑戦する姿勢というものだと思う。こういう方が出てくると、おそらく松江市全体の底上げになるような、起業家というものが出てくるのではないかと感じている。

こういったアントレプレナーシップの中で松江市が施策を実施する中で、投資家であったり、いろんな評価する方がいると思うが、欠けている部分や、こういう方がおられればということがあれば教えていただきたいと思う。

おそらくこの結果の大きな力になっているのがコミュニティではないかと考えている。昔は、起業しても周りに知っている人もいないからという理由で、資金が足りなくなってやめてしまうということがあった中で、お互いが助け合ったり励まし合いながら事業をされるという土壌がきちんとできているのではないかと感じる感想をもった。

(福頼委員)

先ほど省エネの補助金がなくなると言われたが、新しくできた環境負荷軽減活動支援とか職場環境改善支援とかがあって、来年から活用するのを楽しみに感じている。また今回、企業規模別に実績を出していただいております、その結果についてどうこうはないが、より身近に補助事業についてイメージしやすかったり、様々な企業が使われているという意味で安心ができ、良いことだと思った。

(松崎委員)

2つあり、1つ目は来年度からのアクションプランについて、補助支援制度が非常により充実したものになっているのではないかと、感謝をしている。特に設備導入の補助率が上がったということで、非常に期待でき、活用したいと思っている。その一方で、先ほどお話があったように今年度あった省エネ補助金の約 5,000 万円が来年度はないということであったが、来年度の補助支援事業全体の予算規模が決まっていれば教えていただきたい。

2つ目は資料編の 4 ページに過年度からの実績を載せていただいているが、設備導入のところが年々、大きく増えている。コロナ禍が明けたということもあると思うが、もし予算規模が今年と同程度であって、同じように企業の投資意欲があるとすると、今年度以上に金額が増えるのではないかとこのところで期待半分、もしかしたらスタートが遅れたら、予算がなくなったということもあるのではないかとこの点で心配半分という状況。今までも当然予算の制約がある中で、どうしても早い者勝ちになってしまうところもあるのが気にはなっている。難しい問題だと思うが、そこをどうしていくのか。まずは、あまねく周知をしていくことが大事かと思っている。

わかる範囲で結構だが、今年度、予算が枯渇して申請を諦めたような事例があれば、どのくらいあるのかなど把握しておられたら教えていただきたい。

(事務局)

省エネについては先ほど谷口委員にご質問いただいたが、来年度島根県のほうで国の交付金を使った省エネ支援事業を今年度も実施されると聞いているので、併せて紹介させていただきます。

1つ目の、来年度のものづくりアクションプランの補助支援事業の予算規模は約 5,500 万円です。議会にて審議中。今年度は当初予算が 4,000 万円で、年度途中で 1,000 万円の補正予算を追加し、計 5,000 万円の予算であったが、通常版の補助支援事業においては申請を断った事例はなかった。

また来年度について、設備導入の補助率が 10%から 20%に上がると、予算が足らなくなるのではないかとこのことについて。今年度の設備導入を使われた企業の補助金の合計額が約 1,500 万円。それを補助率 10%から 20%に上げた場合はどれくらい予算がかかるかと

いう試算をすると、その場合約 300 万円から 400 万円程度上がると想定している。他の事業も拡充するなどの対応をとっているため、予算が来年度足らなくなる可能性は我々も危惧している。ただその場合は今年度のように補正予算等も検討しながら、予算執行していきたいと思っている。

加えて、その情報が企業の方々へ浸透していかなければということもあるので、来年度 4 月 9 日に商工会議所、商工会とも連携して、補助メニューの企業向けの説明会を行う予定としている。また 4 月中には全社企業訪問する予定としているので、周知を図っていききたい。

(柏井委員)

今回説明いただき、非常に考えられて作られたという印象がある。いろんな意見があると思うが、ちょうどいい落としどころで、今回も非常に使いやすい補助金がたくさん出てきたのではないかという印象。補助制度以外の支援施策についても非常に考えられた支援になっていると思う。

(金崎委員)

説明のあった支援内容等について、我々が出向いて相談していることが今までにないようなくらい盛り込んでいただいております、非常にありがたいと思っている。

その中でお願いがある。

今我々の業界はご存じの通り非常に厳しい状況。打開するためには企業を変えていかないとはいけない。仕事を取ってくるための営業を一生懸命やっているが、なかなか独自ではできない。今グループでいろいろな提案もしながらやっていこうと思っている。それに見合う補助金とか情報とかが必要ではないかと思っているので、そういう支援もぜひお願いしたい。個々では受注活動が難しく、グループとか同業者と受注に向けた営業活動を行う際の補助金があればというふうに思っているので、検討をお願いしたい。

(事務局)

冒頭に部長からお話ししたとおり、アクションプランについては、作って終わりというわけではなく、振興会議や企業訪問等を通じて皆様からご意見等をいただきながら、臨機応変に変えていくのが特徴でもある。今後も企業の皆様からご意見をいただき、その都度皆様が使いやすいような形に変更していきたいと思っている。

(高橋委員)

弊社としても、今後いろいろと社内を変えていこうと、いろいろな補助金を申請させてもらっており大変助かっている。やはり人材育成の支援の拡充ということがすごく弊社にとってうれしいと感じている。

また、いろいろと外部に対しての補助金もある中で、ブランディングに少し力を入れていこ

うと考えている。ホームページの作成であったり、ロゴマークの制作に対する補助金だったり、もし、あるようであればご紹介いただければと思っている。

(内藤委員)

本日説明いただき、設備導入支援の拡充というところはとてもうれしく思った。

和菓子屋はとても手作業が多くて、人手がかかり、非常に生産性が低いというのが課題としてある。

例えば羊羹1つ物差しで測って包丁で切るとか、お菓子を袋に手作業で詰めるとか。

まだそんなことをやっているのかとか、実際はもっと方法があるのだろうが、大それた機械を入れられるわけではなく、どうすればスムーズにできるのかわからない状況。

現状こういう機械が欲しいけどあるのかとか、そういう情報を得るのも難しいという状況の中で、ものづくりネットが改修されてAIを活用して情報提供をいただけるようになるとか、松江高専の学生と関わって課題解決をするという話とかは、我々にとってはとても夢のある話で、何か身近にある課題解決の道に繋がったらいいなと思っている。

(田中委員)

ものづくりネットの改修については説明を聞いて、改善に期待したいなと、楽しみに思っているところ。

また、支援ニーズの脱炭素に向けた支援について。弊社も現在は輸出が半分近くを占めている。しかもそれが食品のため、顧客に直接届いて意見が出やすいものなので、ヒアリングされた内容とは少し異なり、脱炭素については取引先から聞かれ始めているという状況にある。

おそらく松江市だからの悩みになるのかもしれないが、太陽光パネルを導入しようと思うと、市内だと敷地内で道路をまたいでいたりすると、物理的にその道路ごとに設置することになる。例えば敷地A、B、Cがあって、Aで1つ、Bで1つ、Cで1つと設置するとなると非常に効率が悪くなる。これを1ヶ所に集約しようとする、市道や県道、国道を跨いでやるとなると、設備事業者から断られるという現状がある。これは市というか国の話になってしまうかもしれないが、そういう実態があるというお話をさせていただく。

(天崎委員)

補助金はやはり活用していただいてこそそのものであり、進捗状況の執行率も非常に高いということで驚いている。引き続き幅広く、多くの事業者に使っていただけるような周知、案内をしていただければと思う。

補助金でカバーできない部分について、我々金融機関も併せて支援ができるので、そういった案内もしていただけると大変ありがたいと思う。

(田立委員)

私は最初のものづくりアクションプランに当時関わらせていただいたことがあり、それから版を重ねるごとに充実した支援内容になっていて、本当に継続してつくられるということが大事なことだというふうにも感じている。

会議の中で、脱炭素に関する取り組みをぜひ取り上げて進めていただきたいということも申し上げており、それに対する対応もしていただいている。

当行でも、いろんな形で脱炭素に向けて、地域の企業の皆様の取り組みを後押ししていきたいと考えているので、ご協力いただければと思っている。

また、ご案内になるが、当行の方でもスタートアップに対しての取り組みということで、今月の 28 日と 29 日に、スタートアップフェスという取り組みを行う予定にしている。東京などから、ベンチャー企業やスタートアップ企業に来ていただき、当市の企業とのマッチングなどを図るということも進めていきたいと考えているので、ご紹介をさせていただく。

(大屋委員)

今回は前回の会議からヒアリングをしていただき、私が日頃関わっているところで、考え方をまとめていただいた。

まず 1 点目の松江ものづくりネットについては、最近の AI、特に言語モデルを使った技術の進歩が激しく、今の世界の流れでは、AI エージェントという様々な分野の専門家のサポートをするようなものがこれから作られていく時代になっている。そんな中で、この松江ものづくりネットというのはすでにデータがあって、繋がりががあるので、非常に価値のあるものだと思っていて、そういったところに Ruby City MATSUE 2.0 を使いながら、そのシステムを作る人材を育成するというのも 1 つの松江の価値だと思い、提案させていただいた。

これを実現すると、本日の説明でもあったが、年に数回各企業を回って人の手でデータを更新するというのも自動化できるのではないかと思う。企業がそれぞれ作られている資料を自由に格納できるフォルダを実装し、そこからデータを構造化して可視化する。そのデータをうまくかけ合わせて繋ぎ合わせることであればうまくいくのではないかと思う。

実はここ 1 年でそれが実現できる技術まで到達している。これからの方針を考えると、そのデータを活用してこれからの企業の価値を高めていくことができる可能性があると思う。

続けて、地域で連携して人材育成を図っていくという話について、先ほど内藤委員から高専生と連携していけたらということを言われたが、ぜひやっていきたいと思う。

IT とか設備導入というよりも、デジタル技術を使って実際の業務の改善であったり、或いは付加価値をつけることができるのではと思っている。

松江高専はものがつくれるというところが重要で、多くが情報化とか、そういったサービスの方に移ってはいるが、最後に重要なのはものを作ることができる人材。松江高専もそこを

強化していきたいと思っている。そうすると大手企業でやるよりも、身近なところで課題を見つけ、それを自分たちの習った技術、知識を使って解決していくことが重要で、小さなことからやっていきたいと思っている。

例えば風流堂の例では、製造している様子をビデオで撮影し、それを分析しながら、工程をどのようにすると良いとか、作業効率をどのようにすると良いとかを考える。

考えた結果こういう道具をつくればということになれば、試作品を松江高専の実習工場で製造することができるので、作った試作品を活用したり、そういうルーティンの中で見つかった課題を一つずつ解決するとかができるのではないかと思う。また販売についても、学生たちでWebを作ることもできるので、相談しながら具体的に作ってみて、それを実際の経営者の方々とディスカッションをすることもできる。

私が連携の中で一番やりたいと思っているのが、各企業の従業員の方々のリスクリングも兼ねて一緒にできるような活動があると良いと思っている。アクションプランの資料62ページのところで、リスクリングの取り組みについてまとめてあり、特にリスクリングの取り組みをしている企業は生産性が上がっているという集計結果が出ている。こういったところに松江高専や島根大学とかの高等教育機関が参加させていただき、学生の教育だけではなく、企業のリスクリングも兼ねていろんなことができると思う。

できれば、どういったリスクリングを望まれているのかなどが具体的にあったうえで、ものづくりに対して、松江高専の学生とか教職員と一緒にできれば、よりこのアクションプランが1歩進むのではなかというふう感じたところ。

今、高専の機構もアントレプレナーシップ教育を強化していきたいと考えている。それは大手企業に就職するというよりも、何か意欲を持ってものづくり或いは、地方の活性化のために活躍できる人材を育てたい、意識を高めたいという考えを持っている。このアクションプランと連携した様々な事業で、高等教育機関がもう少し関わっていったらと思っている。

最後に1つ。最近の高専や高校入試の状況についてだが、高専の入試の希望者が少なくなっている。今年、新聞にもあったが、北高や出雲高校、県内の理数科の受験倍率が0.5倍とかになっている。実態として、一生懸命学ぼうという生徒が少なくなっている現状があり、やはり自分を高めたいと思う意欲のある生徒や、ものづくりとかいろんな方向から全体で高めていくことが重要だと思っている。松江高専としてもいろんな連携をしながら協力させていただきたいと思う。

6. 所管課等

松江市産業経済部ものづくり産業支援センター

電話 60-7101